

昨年度は発行枚数が前年に比べ増加したなどを報告した。

また、今年度新規の「国産食肉理解醸成食育推進事業」では、出前講座・研修会を11県、食育料理セミナーを23県、体験交流会を6県で実施中とし、積極的に取り組まれている。

「食肉流通HACCP普及推進事業」では、マニュアル作成委員会や指導者育成セミナーを開催したことなどを説明。質疑応答で、食肉小売店では飲食や総菜販売を行っているところもあり、対応について質問する意見が出された。

「肉の日」キャンペーンソング「待ってましたお肉の日」については、CD1万枚を作成し組合員店舗に配布。会議終了後の懇親会には香蓮さんが駆けつけ、同曲を披露した。



〈写真〉④あいさつする河原会長 ⑤全国から道府県肉連の会長が参集した

新ロゴマークを披露 日本畜産物輸出促進協 香港で和牛ゼミ

日本畜産物輸出促進協議会はこのほど、和牛の新しいロゴマークの紹介とPRを行う「香港における現地マスコミを活用した和牛PRセミナー」を香港のニューワールドミレニアム



ホテルで開催した。新ロゴマークには大きく「JAPAN」とうたわれ、他国産との差別化を狙って日本産をよりアピールしており、従来の物と併用して使用される。

海外で新ロゴマークが紹介されるのは初めて。同セミナーは香港の現地マスコミに向け、わが国の和牛認知度向上、他国産和牛との差別化、輸出拡大に向けた推進を図ることを目的として行われ、総勢120人が集まって香港における和牛への注目度の高さを表していた。

中央畜産会の強谷雅彦専務理事は香港の和牛輸入に対する謝辞を述べ、新しくなった和牛のロゴマークを紹介。「より一層のご支持をいただきたい」と和牛の解説を交えてあいさつ。

セミナーでは①和牛の新しいロゴマークの紹介②和牛の特徴などに関する講演③和牛の調理実演、試食提供④和牛のポスター展示および資料配布⑤和牛に関する情報交換の5項目について説明された。

セミナーで調理実演を行った(株)ミートコンパニオンの植村光一郎常務は「カットや調理実演は大変興味をもってみていただいた。試食はステ

ーキとカルパッチョが提供されたが、とくにカルパッチョは和牛の脂肪の融点の低さが出ており、大絶賛だった。さらにマスコミと一緒に来場していたブロガーの積極性にも驚かされたのと同時に、その影響力の大きさに驚いた」と語った。

〈写真〉④和牛の新しいロゴマーク
⑤調理実演を行うミートコンパニオンの植村常務

「肉を喰らう」まとめ 食肉協会 冊子として出版



一般社団法人日本食肉協会は、海外視察記「世界の肉屋をみる! 肉を喰らう!」を取りまとめた。

せっかく肉屋に生まれた以上、世界中のおいしい肉ぐらい死ぬまでに味わってみたい、世界の食肉文化を現地現物で学ぼうではないか——との思いから、会員27人が参加して2月にイタリア、スペイン、フランスでの海外視察を実施。

長い食肉の歴史と文化をもつ欧州で、世界が認める一流の肉屋を訪問、実際に牧場に行き、豚や牛をみて、その肉を味わい、語り尽くせぬほど多くのことを学んだ。その感動を多くの人に伝えるべく、週刊「食肉通信」紙上、月刊「ミートジャーナル」誌上に寄稿として視察記を連載した。

さらに、公益社団法人日本食肉協会の助成(平成29年度食肉流通改善研究事業)により、海外視察記として冊子にまとめ、会員および各業